

# 兵庫県立病院薬剤部 教育研修委員会だより

第 18 刊

令和 3 年 3 月

編集発行：

兵庫県立病院薬剤部長会議  
教育研修委員会

## 担当部長からのメッセージ

今年度はコロナ禍により研修会の企画・運営が非常に難しい年でしたが、教育研修委員会では例年どおり全体研修・階層別研修・専門教育研修・相互利用を実施できるよう、感染対策に十分配慮し企画してまいりました。また、教育研修委員は職員の CPD に沿った自己学習が円滑に進むように WEB 講演会の案内等、サポートを積極的に行ってきました。やむなく中止となった研修もありますが、県立病院薬剤師の資質向上を継続的に図るべく、今後も委員が中心となって効果的な研修等を企画していきます。

兵庫県立病院薬剤部長会議 教育研修委員会 担当部長

淡路医療センター 薬剤部長 上田 里恵

西宮病院 薬剤部長 西窪 奈津子

## 令和 2 年度教育研修委員会の取り組み

- 1 県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に基づく研修の実施  
全職員を対象とした「総合型薬剤師育成ラダーを用いた CPD に沿った生涯研修」について進捗状況を確認した。
- 2 県立病院薬剤師研修の企画・運営
  - (1) 令和 2 年度第 1 回県立病院薬剤師研修（全体研修）  
令和 2 年 6 月 6 日（土）開催予定で企画するが、新型コロナウイルス感染症拡大のため集合研修中止  
各病院で配布資料を基に研修
  - (2) 令和 2 年度第 2 回県立病院薬剤師研修（階層別研修：担当課長補佐・課長補佐・主査・主任）  
令和 2 年 11 月 28 日（土）開催予定で企画するが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
  - (3) 薬剤師専門教育研修（がん・緩和領域）  
令和 2 年 10 月 27 日（火）開催 同研修会の企画・運営
  - (4) 薬剤師専門教育研修（感染制御領域）  
令和 2 年 11 月 20 日（金）開催 同研修会の企画・運営
  - (5) 令和 3 年度第 1 回県立病院薬剤師研修（全体研修）  
令和 3 年 6 月 5 日（土）開催予定 同研修会の内容等について企画
- 3 県立病院の相互利用の活性化
  - ・複数の施設が参加する合同研修を企画・実施した。
  - ・各病院の設備、業務内容及び特徴的な取り組みなどを「相互利用のための各県立病院情報」として更新し、県立病院薬剤部ホームページ（会員用）に掲載した。
  - ・専門教育研修（がん・緩和領域、感染制御領域）を県立病院で実施した。
  - ・尼崎総合医療センターで救急・集中治療領域について、病棟薬剤業務の相互利用合同研修を実施した。
- 4 新任職員に対する教育研修の円滑な実施にかかる実務手順書の策定  
新任職員に対し年度当初から円滑かつ確実に教育研修を実施することを目的に実務手順書を策定した。
- 5 教育研修委員会だよりの発行  
今年度はトピックスとして、「コロナ禍での部内教育について」を掲載し、教育研修委員会だより第 18 刊を発行した。

## コロナ禍での部内教育について

加古川医療センター 佐野 隆大

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2019年12月以降、中国の武漢市を中心に発生し、瞬く間に全世界に拡散した。4月7日には兵庫県を含む7都道府県に緊急事態宣言が発出され、これ以降加古川医療センターは新型コロナウイルス感染症拠点病院として入院制限、面会制限及び外来トリアージ等を行いながら新型コロナウイルスと対峙してきた。

薬剤部では予防（マスク着用、手洗い、うがい、消毒）の徹底、COVID-19患者や発熱等COVID-19が疑われる患者との接触を避ける、食事時の3密を避ける、集合研修を避ける等の対策を取り、部内に感染者が出た場合でも、薬剤業務が継続できるように濃厚接触者を極力減らすように注意を払っている。このように社会や生活環境に劇的な変化が起こっているが、我々薬剤師は生涯研鑽に努めなければならない。コロナ禍では新人教育の遅れや部員の教育の遅れが危惧されたため、部内の教育方法について以下のとおり見直しを行い、6月より部内勉強会を再開した。

- ① 症例検討会、実務に関する勉強会は集合研修を中止し、メーリングリストを用いて意見交換を行う方式に変更
  - ② メーカー主催勉強会はTeamsやZoom等のWeb会議ツールを利用し、MRが来院しなくても行えるように変更
  - ③ 研修会や勉強会がWebに移行することを見越して単位取得の必要性から薬剤部内にWi-Fiを新設
- ①②により11月までに28回の症例検討会や勉強会を実施した。別途、3密を避けて対面で新人研修を予定どおり12回実施した。また、③により日本病院薬剤師会等が開催するWeb研修会や専門・認定薬剤師に必要なWeb研修会に参加し、キャリアを途切れさせないように単位を取得した。

現在、COVID-19は第3波の真っただ中である。どのような環境下でも、それに適応し、常に前に向かって歩み続けていくことが我々の使命である。



# 資格取得者からのメッセージ

## 認定・専門取得にチャレンジしてみませんか？

周術期管理チーム認定薬剤師  
尼崎総合医療センター 梶田 祐三子

### 1. 周術期管理チーム薬剤師の受験資格

周術期管理チームとは、昨今の急性期医療の集約化に伴う手術症例・麻酔症例の増加に伴い、周術期医療の安全確保を目的に立ち上げられました。医師を始め看護師、薬剤師、臨床工学技士など多職種の専門性を活かし情報共有してチームとして患者を支援することを目的に、薬剤師は2016年度より認定制度が開始されています。

周術期管理チーム薬剤師の認定要件は、①5年以上の病院・診療所勤務歴のうち2年以上の周術期関連実務経験、②専門講習の2回以上の参加実績、③認定試験の合格です。



手術室薬剤サテライト内

### 2. 周術期管理チーム薬剤師の業務内容

尼崎総合医療センターでは、手術室業務の円滑な運営のため、手術室薬剤サテライトを設置しています。主な業務は、手術に関連する薬剤の払出し、管理薬品の管理、DI業務等があげられます。手術室では麻薬、鎮静剤、筋弛緩剤を始めとする管理薬品を数多く扱っています。医薬品管理が専門である薬剤師が関与することで、医師・看護師の業務軽減につながっていると考えています。

### 3. 周術期管理チーム薬剤師を目指したきっかけ

尼崎総合医療センターでは、術前の薬剤管理を入院前説明センターやPFM業務を通して行っています。また病棟業務は集中治療室担当であり、術後の薬剤管理指導に関与することができます。

術前後の薬剤に関しては主治医やICU担当医と連携して関わることができますが、術中はどのような薬剤が実際に使用されているのか、具体的なことは曖昧でした。そんな中でこの資格について知り、周術期業務全体が分かるようになればと考え、認定取得にチャレンジしました。

### 4. 周術期管理チーム薬剤師の資格を取得してから

この認定資格は、医師、看護師、臨床工学士らと同じチームに入ったときに同じ目線で話し始められるようにということがコンセプトになっています。各職種が専門性を持って業務に携わる中、他職種のスタッフと薬剤に関する話をするときには、すぐに相談できる薬剤師の窓口として業務に関わっていきたいと考えています。

まだまだ認知度が低い認定資格だと思いますが、今後高いチーム性を発揮する資格になると考えています。興味を持った方は、是非HPを見てください！ (<http://public.perioperative-management.jp/>)



麻薬搬送用バッグと全麻トレイ

# 専門・認定薬剤師等の取得状況

(令和 3年 1月 現在 )

名称・認定団体等	尼崎総合 医療センター	西宮病院	加古川 医療センター	丹波医療センター	淡路 医療センター	ひょうりんの 医療センター	こども病院	がんセンター	姫路循環器病 センター	粒子線 医療センター	合計
がん指導薬剤師								1			1
がん専門薬剤師								1			1
がん薬物療法認定薬剤師							1				1
感染制御認定薬剤師					1		1		2		5
日本糖尿病療養指導士				2				2			5
栄養士・チーム専門療法士			2		2		2	1	2	1	17
緩和医療暫定指導薬剤師											1
緩和薬物療法認定薬剤師			1					1			3
医療薬学専門薬剤師		1					2				3
日病薬病院薬学認定薬剤師		13	4	4	5	6	5	8	2	1	48
生涯研修履修認定薬剤師 (5年)		5	2		1	2	1	2	3		16
研修認定薬剤師		2	2	2				3			9
認定実務実習指導薬剤師		10	4	6	6	5	1	4	8	3	47
日病薬認定指導薬剤師				1				1	2		4
小児薬物療法認定薬剤師		4					1				5
漢方薬・生薬認定薬剤師		1									1
救急認定薬剤師		1	1		1	1					4
抗菌化学療法認定薬剤師		2		2				2	2	3	12
日本 DMAT 隊員		2	1	2		1			2		8
スポーツファーマシスト			2	2	1					1	6
外来がん治療認定薬剤師		1	1	2		1		2	2		9
医療安全管理者		3			1	1		2	1		8
NST 専門療法士実地修練		5	1	2	2	3	2	1	2	2	21
骨粗鬆症マネージャー		1		1		2					4
禁煙指導認定薬剤師				1							1
周術期管理チーム認定薬剤師		2	1								3
合計		59	24	28	19	25	4	24	38	17	243

## 書籍出版・学会発表

病院名： (尼) …尼崎総合医療センター (西) …西宮病院 (加) …加古川医療センター  
 (丹) …丹波医療センター (淡) …淡路医療センター (こころ) …ひょうごこころの医療センター  
 (こども) …こども病院 (が) …がんセンター (姫) …姫路循環器病センター  
 (粒) …粒子線医療センター ※ …レジデント

## 論文発表

期間：令和元年12月～令和2年11月

### ● 医療薬学誌 Vol. 46, No. 12

小児泌尿器科における周術期経口第3世代セファロsporin系抗菌薬削減及び静注抗菌薬適正使用の効果	(こども) 渡邊 稜子
---	-------------

## 学会発表

期間：令和2年度発表分（発表予定を含む）

### ● 第84回 日本循環器学会学術集会 令和2年7月27日～8月2日

心不全チームと緩和ケアチーム連携後の末期心不全患者における呼吸困難に対するモルヒネの使用実態調査	(尼) 木下 紗江
--	-----------

慢性心不全症例におけるトルバプタン長期使用の安全性と有効性の検討	(尼) 前田 真由子
----------------------------------	------------

### ● 第23回 日本臨床救急医学学会総会・学術集会 令和2年8月27日～28日

クローン病に対してInfliximab加療中、初発の劇症型心筋炎を発症した1例	(尼) 直 朋弘
---	----------

### ● 第68回 日本化学療法学会総会 令和2年9月13日

AST専従職種が少ない当院における抗菌薬適正使用支援チーム活動の検討	(西) 田中 智啓
------------------------------------	-----------

### ● 第57回 日本糖尿病学会近畿地方会 令和2年10月17日～31日

兵庫県立淡路医療センターにおけるSGLT2阻害薬とSU薬の使用状況調査	(淡) 山口 泰大
-------------------------------------	-----------

### ● 第30回 日本医療薬学会年会 令和2年10月24日～11月1日

薬剤師によるirAE対策の遵守確認介入前後におけるフォロー件数の単施設後視的比較検討	(尼) 前田 和輝
--	-----------

当院の肝細胞癌に対するレンパチニブの服用患者における血圧の調査について	(西) 近藤 理絵
-------------------------------------	-----------

フェントステープ使用実態調査	(淡) 岡田 悠加
----------------	-----------

心不全緩和ケアの薬剤業務に関する進め方 -呼吸苦・倦怠感について-	(姫) 寺崎 展幸
-----------------------------------	-----------

当院の緩和ケアチームにおける心不全患者向けパンフレットの活用について	(姫) 今村 舞子
------------------------------------	-----------

### ● 第56回 日本移植学会年会総会 令和2年11月1日～30日

兵庫県立西宮病院の腎移植患者における薬剤情報提供書（トレーシングレポート）を利用した薬薬連携の取り組み	(こども) 太田 あづさ
---	--------------

### ● 第90回 日本感染症学会西日本地方会学術集会

### 第63回 日本感染症学会中日本地方会学術集会

### 第68回 日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会 令和2年11月5日～7日

COVID-19患者へのロピナビル/リトナビル、ファビピラビル投与の有効性及び安全性についての検証：後方視的コホート研究	(尼) 濱端 綾太
--	-----------

当院におけるMEPM使用実績とMEPM初回介入の取り組みについて	(淡) 岡松 雅樹
----------------------------------	-----------

セファゾリンナトリウムの供給困難に対する当院の対応について	(姫) 大野 真孝
● 第 62 回 日本小児血液・がん学会学術集会 令和 2 年 11 月 20 日～22 日	
Pharmacological counseling and disease maker monitoring for refractory chemotherapy-induced constipation associated with pediatric cancer therapy	(尼) 永井 浩章
● 第 14 回 日本腎臓薬物療法学会学術集会・総会 2020 令和 2 年 12 月 14 日～20 日	
小児領域におけるネフローゼ症候群に対するリツキシマブの治療成績と有害事象発現の状況	(こども) 齋藤 あゆみ
● 第 42 回 日本病院薬剤師会近畿学術大会 令和 3 年 1 月 30 日～31 日	
入院前より HIV 感染外国人妊婦に介入し、アドヒアランス向上に寄与した症例	(尼) 門倉 史枝
兵庫県立尼崎総合医療センターにおける AST 活動状況について	(尼) 池村 理紗
整形外科病棟における持参薬の代替薬提案 ～安心安全な治療の提供を目指して～	(尼) 福田 美希
低セレン血症を呈する小児患者への調査	(尼) ※橘 千菜美
CBDCA+VP-16+Atezolizumab の年齢による副作用発生割合の比較	(尼) ※吉田 友梨
転移性腎細胞癌における、ニボルマブ+イピリマブ併用療法による irAE 発症件数と治療継続の可否について	(尼) ※李 美和
N-POP (Nishinomiya support service of Prevention for secondary Osteoporotic Proximal hip fracture) における薬剤師の役割	(西) 丸本 一希
ポリファーマシーについて薬剤師ができること	(加) 金安 真由子
リウマチ患者における生物学的製剤使用時の PCP 発症予防調査	(加) 田原 由貴
抗がん剤鑑査支援システムユヤマ P2Care システムの導入・活用について	(丹) 中山 奈美
外来診療における抗菌薬適正使用への取り組み	(丹) 福山 裕季子
疑義照会事例収集による状況調査とその分析	(丹) 足立 壮
当院における残薬調整の取組みについて	(淡) 大田 晴香
当院 AST における薬剤師介入の効果	(淡) 新垣 早苗
兵庫県立淡路医療センターにおける下肢整形手術に対するエドキサバンの適正使用状況について	(淡) ※坂田 采弥香
拒薬のある長期入院中の統合失調症患者に blonanser in テープ剤を導入し、自宅への退院が可能となった 1 例	(こころ) ※高井 英里
小児患者の家族向け抗がん剤治療時の曝露対策パンフレットの作成	(こども) 池 啓伸
発熱性好中球減少症に対する抗菌薬適正使用チームによるカンファレンス&フィードバックの効果	(こども) 高橋 美賀
閉鎖式薬物移送システムの使用拡大における課題	(が) 大塚 歩美
ST 上昇型心筋梗塞患者における LDL-C 値と脂質代謝異常改善薬の使用実態調査	(姫) 近藤 瑞希
B 型大動脈解離保存的治療におけるアドヒアランス向上を目指して	(姫) 佐伯 剛史
当院における SGLT2 阻害薬内服患者の尿培養検査陽性例について	(姫) ※佐伯 茉帆
● 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2021 令和 3 年 3 月 6 日～7 日	
兵庫県立加古川医療センターにおけるがん化学療法連携充実加算に向けた取り組み	(加) 佐野 隆大
当院における濾胞性リンパ腫の患者に対する先行リツキシマブと後続リツキシマブの infusion reaction の発現状況と安全性の検討	(が) 藤田 愛美
当院におけるヒドロモルフォン塩酸塩注射液の使用状況調査	(が) 山内 紗綾香
オピオイド使用中の難治性がん疼痛患者への低用量メサドン上乘せ症例の検討	(が) 國東 佑美
● 第 85 回 循環器学会学術集会 令和 3 年 3 月 26 日～28 日	
感染性心内膜炎患者におけるワルファリンとリファンピシン併用が PT-INR に与える影響	(尼) ※井本 悠太

# 令和2年度 県立病院薬剤師研修報告

## 全体研修（全職員対象）：令和2年6月

## 各施設

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、集合研修は中止となり、研修内容を縮小し、各施設にて研修資料を用いて実施した。

### ● 薬剤部長会議について

薬剤部長会議では、後発医薬品の使用推進、大学訪問・就職説明会での人材確保や、以下の委員会の企画検討・最終決定を行っている。

業務標準化推進委員会は、病棟業務の円滑な標準化・統一化にかかる実務手順書を作成・活用し病棟業務の質の向上、薬剤管理指導症例報告による薬学的介入技術の共有、向上に取り組んでいる。

教育研修委員会は、県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に基づく研修の実施、薬剤師研修（全体研修、階層別研修）・専門教育研修（がん・緩和・感染）の企画・実施、県立病院間の相互利用（各病院の特色を生かした研修等）を実施し薬剤師の質の向上に取り組んでいる。

リスク管理委員会は、事故及びヒヤリ・ハット事例集計及び防止対策の検討、「新入職者等に対するリスクマネジメント研修」等の教育の充実、計数調剤鑑査システムの機能向上の推進によりヒヤリ・ハット及び医療事故の未然防止に取り組んでいる。

### ● 「切り開こう！新しい未来」～診療報酬改定からみえる病院薬剤師に期待されること～

（資料提供：日本血液製剤機構 事業戦略部 谷澤正明先生）

令和2年度診療報酬改定では「働き方改革」、「機能分化・強化・連携」が焦点となり、医療機関がタスクシフト・シェア、チーム医療の推進を実現化する必要がある。病院薬剤師が関わる令和2年度診療報酬改定の主な改定箇所は、病棟薬剤業務実施加算の増点、抗菌薬適正使用支援加算に「外来における急性気道感染症及び急性下痢症の患者への経口抗菌薬の処方状況の把握」が追加され、外来がん化学療法の質向上のための取り組みとして連携充実加算の新設、薬剤総合評価調整加算が見直され、退院時薬剤情報連携加算が新設された。

これからの病院薬剤師は、より活発な服薬説明、処方提案、PBPM等の薬剤師の業務拡大による医師負担軽減や、AST活動の強化、入院時のポリファーマシーに対する取り組み、薬局への薬剤の変更内容の情報提供や抗がん剤治療に関する研修会の実施等による薬局との情報共有・連携強化が期待される。



（ひょうごこころの医療センター 田畑 佳祐 記）

## 階層別研修（主任・主査・課長補佐対象）

：令和2年11月28日（土）

開催中止

今年度は、以下のとおり企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となりました。

研修Ⅰ「薬剤部組織マネジメント・人材育成を考える」講師：大垣市民病院薬剤部長 吉村知哲先生。大垣市民病院における教育体制、人材育成の考え方と仕組み、体制・環境整備の方法について学ぶ。SGD「ミドルマネージャーとしてやるべきこと」。

研修Ⅱ「研究発表から論文作成へ」講師：神戸大学医学部附属病院臨床研究推進センター副センター長／データサイエンス部門長特命教授 大森崇先生。認定・専門薬剤師の資格取得に必要な論文作成、学会発表の能力を高めるため、臨床研究の基本的な考え方、学会発表の論文化について学ぶ。過去の学会発表データを各自で持ち寄り、論文化する際の手法について考える。

研修Ⅲ「電子カルテや調剤システムのリプレイスにおいて薬剤師が考えておくべきこと」講師：京都第二赤十字病院薬剤部／医療情報室（兼務） 岡橋孝侍先生。他病院におけるシステム更新事例を参考に、システムの要件や機能、データ及びマスタ移行の課題やその解決方法を学ぶ。

（西宮病院 坂本有里恵 記）

## 薬剤師専門研修（がん・緩和領域）

：令和2年10月27日（火）

がんセンター

参加 10 名

多発性骨髄腫の治療について

本研修では、①医師による講義（多発性骨髄腫の最新治療）、②薬剤師による講義・症例検討（多発性骨髄腫患者を中心とした薬学的管理について、がん患者の症状緩和を目的とした薬物療法について）が実施された。

①では、2020年版造血器腫瘍診療ガイドラインの変更点や、がんセンターで実際に行われている治療・検査方法の紹介があった。

②では、多発性骨髄腫の治療に用いる薬剤の特徴や副作用、ガイドラインに基づいたレジメンの選択、支持療法等の説明があった。症例検討では、年齢や腎機能・肝機能などの患者背景と講義の内容を参考に、レジメンの選択順や注意点について学ぶことができた。

また症状緩和については、オピオイドスイッチングする際の用量設定方法や、剤型を変える際の具体的なタイミング、せん妄の予防薬・治療薬などについて、実際の症例の経過を辿りながら学習することができた。

本研修で多発性骨髄腫について診断から治療、症状緩和まで系統だった知識を得た。



（丹波医療センター 中山 奈美 記）

## 薬剤師専門研修（感染制御領域）

： 令和 2 年 11 月 20 日（金）

こども病院

参加 10 名

本研修では、①小児感染症における診断と治療について感染症科医師による講義、②薬剤選択と服薬支援、AST の介入から学ぶ症例、資格取得に必要な知識について認定薬剤師による講義と症例検討が実施された。

①では、小児は年齢に応じて想定すべき疾患の特徴があること、また、患者の全身状態を把握するにあたってはバイタルだけでなく、見た目の具合や保護者の観察情報も重視しなければならないこと、さらに心身的に不安定な小児への治療はできる限り負担がかからないよう配慮が必要であることを学んだ。

②では、年齢による体組成の違いや適応の違いを把握した上で、抗菌薬の特徴を加味し、薬剤選択に取り組まなければならないことや、退院後の服薬アドヒアランスの向上を図るために、患児とその保護者へのきめ細かい関わりが重要であることを学んだ。症例検討では、小児領域の薬剤選択について実践し理解を深めることができた。

資格取得に関する講義では、資格取得の流れ、症例の書き方、単位の取得方法等について学び、資格取得への意欲向上へ繋げることができた。



（淡路医療センター 岡松 雅樹 記）

## 令和 2 年度 県立病院相互利用の状況

実施日	内容	実施施設	参加人数
7月17日	レジメン管理	がんセンター	1名
7月28日	Patient Flow Management (PFM)	尼崎総合医療センター	1名
7月30日	緩和ケアチーム活動	姫路循環器病センター	1名
8月3日	外来化学療法患者への服薬指導、外来麻薬指導	がんセンター	1名
8月12日	緩和ケアチームラウンド	尼崎総合医療センター	3名
8月18日	心不全カンファレンス	尼崎総合医療センター	2名
8月18日	集中治療室での業務	尼崎総合医療センター	1名
9月7日	調剤業務	尼崎総合医療センター	2名
9月9日	がん化学療法関係	尼崎総合医療センター	2名
10月15日	抗菌薬適正使用チーム (AST)	尼崎総合医療センター	4名
10月28日	抗がん剤調製・抗がん剤処方鑑査	尼崎総合医療センター	1名
11月10日	病棟薬剤業務(救急・集中治療領域)	尼崎総合医療センター	2名

※県立病院相互利用とは： 県立 10 病院における新規業務、システム、特徴的な取り組み（チーム医療、病院独自の取り組み等）を病院間で情報共有することにより、人的・物的資源の有効活用を図ると共に、県立病院全体の業務の質向上を図る取り組み

# 兵庫県立病院レジデント制度

## 受入実績

(令和 2年 9月現在)

令和2年度受入人数： 19名(1年目 12名、2年目 7名)

令和元年度レジデントのうち兵庫県職員合格者： 1名

《参考》レジデント受入年次推移

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
20名	19名	18名	19名	19名

## レジデントの声

### こども病院 レジデント(2年目) 須藤 由菜

兵庫県立こども病院レジデント2年目の須藤由菜です。

1年目は調剤に関する説明から、医療倫理や関係法規等の基本的な内容にわたって講義を受けます。小児は成人と異なり体重や年齢によって投与量が大きく変わるため、調剤業務では小児薬用量の参考書などを見て確認します。また3ヶ月ごとに担当病棟をローテーションすることで、様々な小児の病態について学ぶことができました。

2年目には外科・循環器科・集中治療科の病棟担当になり、集中治療科病棟では病棟回診に参加しています。そこでは薬剤の副作用についての注意喚起を行ったり、注射薬の投与速度に関する意見を医師に提案することもあります。循環器病棟ではワーファリンなどの抗凝固薬を内服している患者が多いため、給食に含まれるようなほうれん草等の食物との相互作用について保護者に確認します。

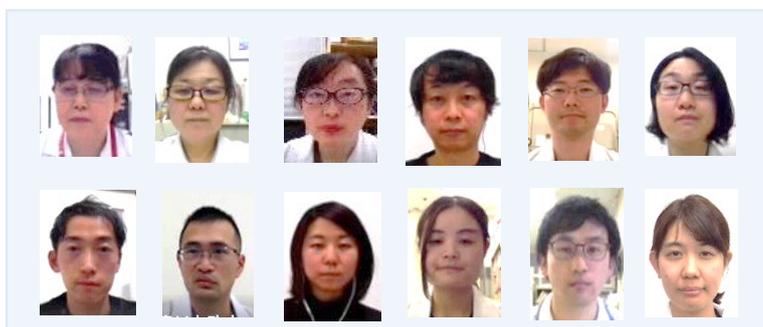
指導時に注意している点としては、小児は薬剤の味や剤型が原因で服薬が苦手になることがあります。そのため病棟での服薬指導では看護師や保護者と相談し、薬物を服薬補助ゼリーに混ぜるなど内服しやすくする方法を保護者とともに考えていきます。

今までの経験を活かし、小児のよりよい医療に貢献できる薬剤師を目標に日々業務を努めています。



**編集後記** 本年度はコロナ禍において、生活様式が劇的に変化した年となりました。そんな未曾有の事態の中、私たち病院薬剤師を取り巻く環境や求められる資質もさまざまに変化していきます。その変化を見逃さず時代のニーズに合った薬剤師として日々精進していきたいと考えます。

## 令和2年度教育研修委員会



担当部長	上田 里恵	西窪 奈津子
委員長	瀬川 和子	
副委員長	佐野 隆大	
委員	橋本 貴史	坂本 有里恵
	田中 将太	田畑 佳祐
	研 真梨子	國東 佑美
	沖元 秀都	山本 みどり